

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
17	井出 晴美（20）	<p>1. 生涯を通じた女性の健康支援について</p> <p>平成12年に初めて策定された男女共同参画基本計画の中の8生涯を通じた女性の健康支援の施策の基本的方向に、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する意識の浸透」ほか2つの目標が示されました。</p> <p>このリプロダクティブ・ヘルス／ライツとは、人が生涯にわたって、差別と強制と暴力を受けることなく、性と生殖に関して身体的、精神的、社会的に良質な健康環境にあること、また、その状態を享受する権利と定義されており、基本計画の中でも、この意識を広く社会に浸透させ、生涯を通じた女性の健康支援の取組がいかに重要か認識を高めるという観点から、性別を問わず、正しい知識・情報が得られる、また認識を深められる施策を推進する旨が記載されていました。</p> <p>さらに、令和2年12月に閣議決定された第5次男女共同参画基本計画の、「第7分野 生涯を通じた健康支援」の基本認識では、「男女が互いの身体的性差を十分に理解し合い、人権を尊重しつつ、相手に対する思いやりを持って生きていくことは、男女共同参画社会の形成に当たっての大前提である。」、「心身及びその健康について、主体的に行動し、正確な知識・情報を入手することは、健康を享受できるようにしていくために必要である。特に、女性の心身の状態は、年代によって大きく変化するという特性があり、『リプロダクティブ・ヘルス／ライツ』の視点が殊に重要である。」との記述があり、生涯にわたる男女の健康の包括的な支援具体策として、ア包括的な健康支援のための体制の構築、イ妊娠・出産に対する支援、ウ年代ごとにおける取組の推進の3つの取組が示されています。</p> <p>本市でも、第4次富士市男女共同参画プランの中に、リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて記載があり、「男女共に性に関する正しい知識と情報を持ち、的確な医療や健康を支援する取組の充実を図ります。」と示されていますが、市民への周知・啓発がされていないのが現状です。</p> <p>そこで、以下3点について伺います。</p> <p>(1) リプロダクティブ・ヘルス／ライツの市民における認知度についてどのように認識されているのか伺います。</p> <p>(2) リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する意識の浸透を図る研修会や講演会の実施が重要と考えますが、本市の見解を伺います。</p> <p>(3) 支援具体策の中には、学校教育における性教育の充実も挙げられています。自ら考え判断する能力を身につけ、望ましい行動を取れる児童生徒の育成のため、教職員に対する研修会の実施のほか、学校外の関係機関・地域や産婦人科医・助産師・保健師等との連携を図る取組も重要と考えますが、本市の見解を伺います。</p> <p>2. タブレットを活用した児童生徒のメンタルヘルスを把握す</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
17	井出 晴美（20）	<p>る取組について</p> <p>全国的に見られる不登校・いじめ・自殺など、児童生徒にまつわる心の問題は、年々深刻さを増しています。</p> <p>そんな中、大阪府吹田市教育委員会は、昨年9月から市立小中5校に、児童生徒のメンタルヘルス（心の健康）を把握するデイケンを試験導入し、本年2月には、不登校が改善したとの成果を発表しました。</p> <p>デイケンの正式名は「こころとからだの連絡帳デイケン」といい、学校などにおいて、子供たちが毎朝各自のタブレット端末に、心身の状態や先生への相談希望について回答するウェブシステムで、データが集約・蓄積され、即時に解析されます。児童生徒の心身の状態にマイナスの回答が続き、不調が疑われたり、相談希望がある場合は、教員に通知され、個々の判断だけに頼るのではなく、学校全体で対応の遅れや記録漏れを防ぎ、早期発見・早期支援が可能となります。</p> <p>導入した5校では新たに不登校になる児童生徒の割合が、未実施校の平均より約2割低くなり、いじめ被害を訴える子供の割合は5校中4校で改善したそうです。</p> <p>そこで、以下2点について伺います。</p> <p>(1) 本市の不登校・いじめの現状と対策について伺います。</p> <p>(2) 本市でも、児童生徒1人1台のタブレットを活用して、心や体調の変化を把握し、メンタルヘルスの悪化や児童生徒が発するSOSの早期発見・早期支援につなげる心の健康観察アプリを検討・導入してはとありますが、本市の見解を伺います。</p>	市長 及び 教育長 担当部長